

3 学習活動

子どもが、社会的事象を読み解く力を身に付け、学習意欲を向上させていくためにはどのように学習活動を進めていけばよいのだろうか。

小原顧問は、平成 23 年度広島市小社研夏季研修会での講話で、下の表のように話された。

表 1 思考力・表現力・判断力を育成する学習活動

活動の種類	目的	発問と活動内容
「知る」ための活動	「資料から必要な情報を集めて読み取る」 用意された教材に関して発見した学習問題を解決するために必要な情報を収集する。	社会的事象や問題に、「どのように、どのような」と問いかけ、収集した資料からその過程や構造・特色を抽出してまとめ、表現させる。
「わかる」ための活動 A	「社会的事象の意味・意義を解釈する」 人間の働き(行為の目的とその意味・意義)を目的・手段・結果の関係を軸に解釈し、共感的に理解する。	社会的事象や問題に、「なぜ、どうして」と問いかけ、その背後にある問題場面での人間(個人・集団・組織体)が行った(行っている)問題解決的行為の過程とその結果を「体験・追体験」させる。
「わかる」ための活動 B	「事象の特色や事象間の関連を説明する」 その背後にある事象間の関係性を見付け、それによって科学的に説明する。	社会的事象や問題に「なぜ、どうして」と問いかけ、その根拠を探り、科学的に説明を行わせる。
「生きる」ための活動	「自分の考えを論述する」 自分なりの意見や考えをもち、それを論理的に表現する。「問題解決」・「意思決定」・「社会形成」	社会的事象の中の問題や課題に、「どうしたらよいか、どの解決策がより望ましいのか」と問い、論述させる。

思考力・判断力・表現力を育成するとは、児童にどのような力を付けていくのかを明らかにした上で、意図的な発問のもと、表 1 のような学習活動を仕組むことが大切なことである。

前項で紹介した単元「わたしたちのくらしとものをつくる仕事ーかきを育てる仕事ー」(以下「かきを育てる仕事」という)の学習指導案を例にしながら、四つの学習活動を学習過程「であう」、「ふかめる」、「いかす」に沿って、具体的に説明をしていく。

「かきを育てる仕事」であれば、広島のかきの生産に興味を持ち、広島のかきの生産量が日本全体の 60% のシェアを誇っている理由を、それに携わる人々の工夫や努力

といった人的な条件（「わかる」ための活動A）と、かきの生産に適した自然条件（「わかる」ための活動B）との2観点から迫る学習になると考えられる。

(1) 「である」における学習活動

学習過程「である」では、大きく分けて二つの学習活動が想定できる。

- ① グラフや写真，読み物資料などを提示し，読み取ることで，学習内容に興味をもち，疑問や不思議を話し合いながら，単元を貫く学習問題を設定する。
- ② 学習問題に対して予想し，問題を解決するための調べ問題を設定することで，学習計画を立てていく。

① グラフや写真，読み物資料などを提示し，読み取ることで，学習内容に興味をもち，疑問や不思議を話し合いながら，単元を貫く学習問題を設定する

単元「かきを育てる仕事」の導入では，子どもたちは広島で有名なものをたくさん発表していく。そして，次第にかきが話題の中心になるようにしていく。

話題を広島かきに焦点化したところで，広島かきの生産量を表したグラフを提示する。グラフを提示し，グラフから読み取れることを子どもたちが出し合う。この部分は，単元全体を貫く学習問題を立てていくための入り口である。グラフをしっかりと読み取り，班で分かったことや疑問に思ったことをたくさん出せるように，時間を十分に取る必要があるだろう。

話し合うことで，子どもたちは広島のかき生産は有名であることは知っていたが，日本全体の60%のシェアがあることには驚くだろう。そして，それはそのまま「なぜ」，「どうして」という疑問へとつながり，「なぜ，広島のかきの生産量は，日本一なのだろうか。」という単元全体を貫く学習問題を立てることができるだろう。

② 学習問題に対して予想し，問題を解決するための調べ問題を設定することで，学習計画を立てていく

単元を貫く学習問題を設定すると，次はその問題を解決するための学習計画を立てていく。何を調べれば，その問いが解決できるか，それを考えていくのがここでの学習活動になる。

学習計画を考えるときに手掛かりとなるのは，単元全体を貫く学習問題に対する予想である。「なぜ，広島のかきの生産量は，日本一なのだろうか。」という問いに対して，子どもたちは，「広島の手にはかきのえさがたくさんあるのではないか」，「昔からかきの養殖をしていて広島にしかない技術があるのではないか」，「波が穏やかだから養殖には適しているのではないか」など，たくさんの予想をしていくはずである。時間を十分に確保し，小集団で考えを出し合う。そして，小集団で出し合ったことを，一斉に出し合い，整理していくことで，何を調べればよいのかが見えてくるはずである。それをまとめたものが次のページの表2である。

表 2 児童の予想とその調べ問題の例

予想例	調べ問題
よいえさがあるから	かきのえさは何か。 かきが好むえさが養殖場の近くにあるのか。
養殖業者がかき生産に優れているから	かきはどのように養殖されているのか。 特別な工夫があるのではないか。
以下（略）	

上の表のように予想を出し、予想を確かめるためにはどうすればよいかを考えるようにする。そうすると、何を調べていけばよいのかが明らかになるであろう。

単元を貫く学習問題を常に意識しながら、子どもたち自身が予想を出し合い、学習計画を立てていく。そうすることで、「何を何のために調べているのか」、「何を考えるために調べているのか」が明確になり、学習意欲をもって学習に取り組むことができるであろう。

(2) 「ふかめる」における学習活動

学習過程「ふかめる」では、大きく分けて二つの学習活動が想定できる。

- ① 学習計画に沿って調べ活動を行っていく。
- ② 調べたことから考えて表現し、学習問題に迫る。

単元全体を貫く学習問題は、「なぜ、広島のかきの生産量は、日本一なのだろうか？」である。学習過程「ふかめる」では、その学習問題を調べ問題に沿って調べていく学習活動、そして、調べたこと・考えたことをまとめたり、表現したりする学習活動をしながら、単元を貫く学習問題を解決していくことになる。

① 学習計画に沿って調べ活動を行っていく

【知るための学習活動】

学習問題を解決するための入り口として、かきの生態やかきが養殖でつくり育てられていること、かき養殖の方法などを知るための学習活動を行う。これは小原顧問が示す表1の「知る」ための学習活動に位置付く。

ここでは、かきの生態が分かる資料、かきが養殖によってつくり育てられている写真や資料などを基に、子どもたちがかきやかき養殖についての基礎的な理解を図るための活動をする。単元「かきを育てる仕事」では、第4時、第5時にあたる。

【「わかる」ための活動A】

「わかる」ための活動Aは、携わる人々の工夫や努力といった人的な条件から学習問題に迫る活動である。

かき養殖技術の変遷やかき養殖の歴史が分かる資料、かき養殖業者の工夫や努力が分かる資料などを基にして、子どもたちがかき養殖に携わる人々がどのようにして、国内シェア60%を達成しているのか追究する活動である。単元「かきを育てる仕事」では、第7時、第8時にあたる。

【「わかる」ための活動B】

「わかる」ための活動Bは、かきの生産に適した自然条件といった観点から学習問題に迫る活動である。

広島平均気温やかきが成育しやすい条件をグラフや読み物資料などで提示し、子どもたちが読み取っていく。そうすることで、広島湾は、かきの養殖がしやすい自然条件が整っていることをつかんでいく活動が考えられる。単元「かきを育てる仕事」では、第6時にあたる。

② 調べたことから考えて表現し、学習問題に迫る

ここでは、これまでの学習で調べたことを基に、単元全体を貫く学習問題を解決する学習活動を行う。

単元「かきを育てる仕事」では、調べ問題を基に、かきの生態やかき養殖の歴史、かき養殖に適した広島湾の自然条件やかき養殖に携わる人々の工夫や努力などを調べている。学習問題「なぜ、広島のかきの生産量は、日本一なのだろうか。」を提示し、子どもたちが調べてきたことを小集団で確認していく。ただ確認するだけでは事実の確認で終わってしまう。

ここで重要なことは、単元全体を貫く学習問題と今まで調べてきたことを結び付けていくことである。広島湾でかきの養殖が盛んなのは、地形や気候などの自然条件、そして、携わる人々の工夫や努力、その人々の思いや願いなどいろいろなことが、つながり合っているからである。

子どもたちは調べてきたことを小集団で確認し合いながら、単元全体を貫く学習問題を解決するために、いろいろな事象を結び付けていく。そして、学習問題「なぜ、広島のかきの生産量は、日本一なのだろうか。」を解決していく中で、広島湾でかき養殖が盛んな理由に気付けるようにする。小集団で話し合う時間をしっかり取り、それを基に、学級全体で話し合い活動を行うことで思いや考えを出し合う。それによって、広島湾でかき養殖が盛んな理由を深めることができ、“盛んになるためには…”という社会的なものの見方・考え方を身に付けることができるであろう。

(3) 「いかす」における学習活動

学習過程「いかす」で行うべきことは三つの活動に分けることができる。

- ① 社会問題に対して、その解決策を考え、表現する活動
- ② 新たな問題や他の学習へ発展していく活動
- ③ 学習を振り返りながら、総合的に判断する活動

学習過程「いかす」では、「ふかめる」で学習した知識や社会的なものの見方・考え方をを用いて、新たな問題を解決し、何らかの形で子どもの考えを論述する。

① 社会問題に対して、その解決策を考え、表現する活動

かき養殖業者の思いや願いを考えることで、かき養殖に携わる人たちがめざすべき社会の在り方について考えたり、問題を解決するための対策を挙げたりする活動がこの活動にあたる。

東北大震災で壊滅的な被害を東北地方は受けた。そして様々な復興支援がなされる中で、広島のかき養殖業者が、宮城県のかき養殖業者の再建を支援していた。「ライバルであるはずの宮城県の養殖業者をなぜ広島のかき養殖業者の人々は支援しにいったのだろうか」という問いを立て、再建支援をした広島のかき養殖業者の思いや願いに触れていく。東北の復興という社会的な問題に対して、広島のかき養殖業者ができる復興支援に気付けるような学習が想定できる。

② 新たな問題や他の学習へ発展していく活動

学習過程「ふかめる」までに学習した事例を別事例に当てはめて説明することで、単元で学習する知識や社会的なものの見方・考え方を確かなものにするための学習活動である。

単元「かきを育てる仕事」の学習過程「ふかめる」では、「なぜ、広島のかきの生産量は、日本一なのだろうか。」という問いを解決していくことで、広島湾でかき養殖が盛んな理由に気付き、“盛んになるためには…”という社会的なものの見方・考え方を身に付けていると考えられる。

それを、新たな問題や他の学習へ発展していく活動として想定されることは、川内の広島菜づくり、オタフクのソースづくりなど、他の事例に当てはめながら、同じ社会的なものの見方・考え方でその事象を読み解き、説明していく学習となる。

③ 学習を振り返りながら、総合的に判断する活動

自然の恵をより豊かにするために、海で働く養殖業者が山に入り植林をしている。山を豊かにすることで、より栄養の含まれた水が川に流れ込み、海が豊かになる。栄養の豊かな海で育ったかきは当然品質が向上する。「なぜかきの養殖業者が山の中で植林をしているのか」という問いを立て、これからも広島のかき養殖を進化発展させていくためにはどうしたらよいかを子どもたちが考えていく学習となる。

ここまで、前項で提示された学習指導案に即した形で、学習意欲の向上をめざした思考力・判断力・表現力を付けるための学習活動をどう組織するかについて述べてきた。暗記中心の学習活動になっていたり、問題解決への見通しを子ども自身がつかみにくくなっていたりするような課題を克服する学習活動とは何かについて述べてきた。社会を読み解く力を育成する学習活動を地道に積み重ねることで、児童の学習意欲は向上していくことと確信している。